

—JNMS のページ—

Journal of Nippon Medical School

Vol. 76, No. 1 (2009年2月発行)

Summary

Journal of Nippon Medical Schoolに掲載しましたOriginal論文の英文「Abstract」を日本医科大学医学会雑誌に和文「Summary」として著者自身が簡潔にまとめたものです。

Effect of Lidocaine Tape on Pain during Intralesional Injection of Triamcinolone Acetonide for the Treatment of Keloid

(J Nippon Med Sch 2009; 76: 9-12)

ケロイドに対するトリアムシロン局所注射治療に伴う疼痛軽減を目的とした研究：60% リドカインテープを用いた前処置の有効性について

土佐眞美子^{1,2} 村上正洋^{1,2} 百東比古¹¹日本医科大学大学院医学研究科形態機能再生再建医学²日本医科大学武蔵小杉病院形成外科

はじめに：ケロイドに対するトリアムシロンアセトニ

ド(TA)局所注射治療は、一般的に行われている効果的な治療のひとつであるが、その疼痛は強く、治療を継続できず中断してしまうケースが少なくない。今回われわれは、その疼痛について評価し、さらに、60% リドカインテープを用いた疼痛軽減効果について検討した。

対象と方法：当科初診したケロイド患者のうち、TA局所注射治療の経験があり、その疼痛のために治療を中断した症例を対象とした。まず、治療中断の原因となった疼痛について患者に評価してもらい、次に、60% リドカインテープをケロイド上に治療2時間以上前に貼り、その後、TA局所治療を施行した。治療直後に再度、疼痛評価を行った。疼痛評価はVisual Analog Scale (VAS)を使用した。最後に、リドカインテープによる前処置を行った場合、TA局所注射治療を継続できるかどうかを確認した。

結果：前処置なしのTA局所注射治療の疼痛のVASスコアは 82.6 ± 14.4 mm、前処置後のVASスコアは 18.9 ± 11.3 mmであり、明らかな疼痛軽減効果が得られていた。7割以上の患者は、60% リドカインテープ前処置をすれば、ケロイドに対するTA治療が継続可能と答えた。

結論：60% リドカインテープによる前処置を行えば、ケロイドに対するTA局所注射治療に伴う疼痛を軽減することができ、その結果治療継続につながる可能性が示唆された。